



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいく「手話に学ぶ場所」だと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2010年5月現在、川崎2、横浜5、県域10 計17名で活動中!!

～ '09 神通研集会報告⑦ ～

◎「大震災発生3日後の避難所で心配なこと」

<第2グループ>

- ・プライバシー
- ・高齢者の体調管理
- ・介護が必要な人への対応
- ・赤ちゃんの世話
- ・病気（持病の薬が切れた時）
- ・食事（夏は冷たいもの、冬は暖かいものが食べたい）
- ・衛生面（トイレ、風呂、食中毒）
- ・家族・親戚・友人の安否
- ・自宅の様子
- ・孤立してしまうかもしれないこと
- ・避難所の安全性
- ・ライフライン
- ・今後の暮らし

まとめ

- ①プライバシー ②情報 ③衛生 ④ルール
- ⑤健康問題 ⑥今後の生活 ⑦メンタルヘルス
- ⑧避難所での生活 ⑨環境

1～5の順位

- 1、情報
- 2、健康
- 3、衛生
- 4、環境
- 5、今後の生活

～ 定例会 '10/4/24 (土) ～

7月に開催される神通研集会・第1分科会「手話サークル」の内容について話し合いました。

今年度も「災害」を中心に行います。

1995年に発生した阪神・淡路大震災。「ボランティア元年」とも言われていますが、15年が経ち、ボランティアの関わり方やボランティアへの要望も少しずつ整理され、変化が出てきています。

聴こえない人にとって一番身近な存在である「手話サークル」。地域社会・一般社会の情報の窓口になることも大切な役割の一つですね。

【次回定例会】

'10/5/30 (日) 11:10～13:00

県民サポートセンター 701

～サークル研究班メンバーのささやき～

今年のGWは良いお天気でした(∩)

帰省してもらってきた大量の「そらまめ」をご近所の方におすそ分け～!

その日のうちに打ち立て「手打ち蕎麦」のお返しを頂いちゃいました。

物々交換ってことよね^^;

こだわりの江戸の味「二八そば」は茹で方のレシピ付でした。

レシピに沿って(1～13項目あったのだ^^;)茹で上がった蕎麦のおいしかったこと!!かなり感動もんでした。

「そらまめ」でお酒を一杯!仕上げは「手打ち蕎麦」をつゆで一杯!

初夏の味わいですね。

M☆K